

## ◇ 新刊紹介

間部家文書 第二卷 間部家文書刊行会

昭和五七年四月刊 六九三頁 鯖江市

本書は、二年前に刊行の第一巻に引き続き、享保六年（一七二一）から同一四年に至る「從江戸到来御用状」と、享保一〇年（一七二五）一〇月から同一三年に至る各年の「日記」を収録している。従って間部家が越後国村上から鯖江へ転封させられた直後に当たる時期で、権力の中核から遠ざかった間部家として、新しい段階に入った幕藩体制のなかでの苦悩に満ちた鯖江藩の厳しい成立過程が如実にうかがわれる。

なお「日記」のなかに日々の天候が記録されており、これらの天候を抽出し、享保一四年より宝暦一四年（一七六四）までの三五年分を「鯖江地域の天候表」として巻末に掲げており、越前地方の気象史料としては誠に貴重なものである。

本書の編集は、校訂を隼田福井大学教授、舟沢県立図書館奉仕課長、松浦福井大学助教授が担当し、補注を隼田教授、補注及び解説を舟沢課長が執筆している。

（三上一夫）